

●8月6日～9日、八幡平市岩手山焼走り国際交流村で「夏だ！キャンプだ！inいわて」を実施

福島の子どもたちが、福島を離れて思いっきり外あそびをし元気になってほしいと、岩手県生活協同組合連合会・福島県ユニセフ協会・岩手県ユニセフ協会は、東日本大震災支援「夏だ！キャンプだ！inいわて」を8月6日～9日、八幡平市岩手山焼走り国際交流村で実施しました。

●実施にあたりボランティアの事前研修を行いました

7月8日、八幡平市岩手山焼走り国際交流プラザでボランティア研修を実施。

ユニセフ東日本大震災緊急支援本部・心理社会的ケアアドバイザー本田涼子さんから、つらい体験をした子どもの反応や考え方の特徴を学び、言葉での寄り添いかたのロールプレイや、話の聴き方、遊びへの寄り添い方などについて研修しました。

また、ボランティア行動規範、セルフケアなどの理解を深めました。

●岩手山の自然を満喫し、楽しく過ごした4日間でした

福島の子どもたち28名(小4～中3)は、郡山・福島・南相馬から参加しました。盛岡大学学生ボランティア、ユニセフボランティアの“よしえもん”こと藤澤義栄さんにファンリテーターをお願いしました。ボランティアの大学生たちは、子どもたちに寄り添い、4日間岩手山の自然を満喫しながら岩手での夏休みを過ごしてもらいました。



▲バスで到着し受付する子どもたち



▲盛岡大学学生ボランティアのみなさんの歓迎



▲各グループで旗づくりしました



ワイルド企画（私たちは魚釣り、酪農・馬チームも）
ネイチャーゲーム・天体観察など……



▲竹パン、バーベキューに大喜び



▲思い出のキャンプファイヤー

○終わってのふりかえり

8月9日の10時に福島の子どもたちを見送った後、学生ボランティア・ユニセフボランティアのふりかえりを実施。初めに二人ペアでふりかえりをした後、全体でのふりかえりをしました。

学生ボランティアの多くは、将来教職員をめざしています。

1. すべてが本当に貴重すぎる体験でした
2. 被災地の子どもと接するにあたり、事前研修で不安がなくなり自然にかかわることができた
3. 福島の子どもたちは、被災したというのを忘れてしまうくらい普通の元気な子どもたちでした。きっと個々には想像をこえる辛さを味わってきたのだと思います。
4. いろいろな子どもがいて接し方に戸惑いを感じることもありました。子どもたちの態度や発言に正直腹がたつこともあり、どのように声をかけたらいいのか、対応したらいいのか考えなければいけないと学びました。自分にとって良い経験ができたボランティアでした。
5. 研修に参加していなかったのが不安なことが多かった。個人的には、あの子たちが震災でどんな被害を受けた子どもたちなのか知りたいと思いました。必要以上にかまえてしまったところがあった。
6. 開放感や達成感、寂しさもあって複雑な気持ち。ホッとしているけれどもっと楽しみたかったなあという気持ちです。
7. 4日間を通して、とまどうことも多く思春期の子どもたちとふれあう機会が減多にないので接し方が分からず困りました。多くの子どもたちが楽しんでくれていたようなので嬉しかったです。このような場に参加できてとても良かったです。

ユニセフボランティアから

1. 大きな事故なく、子どもたちが日々変わっていく進展があり、当初かかげた目標「夏だ!キャンプだ!外で遊ぼう!」が達成できたので、ホッとしている
2. 心地よい疲れを感じました。森林浴で心がいやされました
3. 自分の責任はこれで果たせたのかという反省がもやもやしています。計画時から、イメージ作りができなくて本番に突入したため、これでよかったのか、わからない感じ・・・」
4. 寄り添いはむずかしいなあと思いました。全く普通に接することにし知識として持っている事は大事だと思った。こうしてはいけないという気持ちがあると1歩踏み出せない・・・けど
5. ホットした気持ち、よしえもん、学生ボランティアやユニセフボランティア、JA 新いわての応援など支えてくださった人たちに感謝します。



▲学用品が入ったユニセフレュックを背負って元気に帰る子どもたち



▲ふりかえりをするボランティアのみなさん全部出し合い、すっきりとした気持ちで解散